

# 20周年を迎えた集団研修コース

倉 沢 一 (海外地質調査協力室)

Hajime KURASAWA

沿海鉱物資源探査と地下水資源開発の両集団研修コースは 1967年にスタートしてから20周年を迎えました。 国連 ESCAP (アジア太平洋経済社会委員会) の勧告にもとづくこれらのコースは海外技術協力事業団 (OTCA) 後の国際協力事業団 (JICA) を受入窓口とし 地質調査所が実際の研修を担当する形で毎年開講され これまでに沿海コースは31ヶ国 213名 地下水コースでは40ヶ国 208名の研修員を育ててきました。

両コースの順調な発展には JICA はもとより 両コースの運営委員 講師 研修スタッフの方々の並々な御協力が御努力が大きく寄与していることはいうまでもありません。 20年の長きに亘るコースの継続と毎年の研修員の好評とは これらの方々によって培われてきたものです。 この間 研修施設の面での改善も進みました。 私自身1971 74~79年に講師として参加させて頂いた経験がありますが 当時の地質調査所庁舎 (川崎 東京) での不十分な施設に比べると 筑波に移ってからの施設は JICA の筑波研修センター (TBIC) をはじめ 当所の新庁舎 研究協力センター (ETC) など格段に向上しており 正に隔世の感があります。

研修修了者の多くは 研修での成果を土台にそれぞれの母国の経済発展に大きく貢献しています。 そうした人達が筑波を訪れた際に 「私は何年のコースでお世話になりました」と挨拶をしてゆきますが この短い言葉の中に私達は心からの喜びを感じます。

20周年というひとつの節目に至るまでには 社会情勢も変わり テーマも変わり さらにそれぞれの技術水準も大きく進歩・発展してまいりました。 これらに対応すべくカリキュラムの改善などより良い成果を得られるよう私達も努力してきました。 集団研修を通じての多くの人々との交流により 私達の世界はこれからも広がり続けることでしょう。 記念記事の冒頭にあたり両研修コースの今後の発展を念願するとともに 関係者各位に心から感謝の意を表します。



昭和43年地質調査所 (溝ノ口) 構内に  
新築された研修所



昭和55年工業技術院筑波研究センター  
に建設された研究協力センター